

南魚沼市パブリックコメント集計結果公表

NO. 2	
案件名	第 2 次南魚沼市総合計画（案）について
募集期間	平成 27 年 8 月 20 日（木）～9 月 10 日（木）
担当課	（問い合わせ） 企画政策課 企画班 TEL：025-773-6672 FAX：025-772-3055 E-mail：kikaku@city.minamiuonuma.lg.jp

■ 募集の趣旨

現在、市では、平成 28 年度から 10 年間のまちづくりについての基本的な考えと具体的な施策を体系的に示す「第 2 次南魚沼市総合計画」の策定に取り組んでいます。

計画を策定する過程で、みなさんの意見・提案を計画に反映させるため、第 2 次南魚沼市総合計画（案）に関するパブリックコメント（意見募集）を平成 27 年 8 月 20 日（木）～9 月 10 日（木）までの間行いました。

お寄せいただいたご意見・情報を集計したので公表します。

ただし、個々のご意見・情報に直接回答はしませんので、あらかじめご了承ください。

■ 提出されたご意見と南魚沼市の考え方

◇寄せられた意見の件数と概要及び意見に対する市の考え方

11 人の方から 15 件のご意見をいただきました。

別紙集計表の左側には意見等を原案の項目ごとに整理し、右側はそれに対する市の考え方を記述しています。

■ 提出されたご意見を考慮して（パブリックコメント実施機関として）確定した計画など

第 2 次南魚沼市総合計画（案）

集 計 表

NO. 2	
案件名	第2次南魚沼市総合計画（案）について

■ パブリックコメント手続結果集計表

1. 意見提出人数

直接持込み	0人
郵 送	0人
F a x	0人
e - m a i l	1人
公式ウェブページ	10人
合 計	11人

■ 意見等の概要及び意見等に対する市の考え方

意見等概要	件数	市の考え方
認可保育所に占める公立保育園の割合を計画のように下げるのであれば、保育士不足が懸念されることから、私立保育園に勤める保育士の待遇改善も合わせて実施する必要があると思います。	1	市独自の保育士の待遇改善については、難しい問題ですが、働きやすい職場環境づくりや公立保育園の適正配置を進めながら、子どもを安全・安心に預けることができる保育園運営を図っていきます。
1組の夫婦が子どもを1人でなく2人以上産み、育てられるような環境整備のためには、若者が働く場があること、安心して子どもをあずけられる保育園・子ども園があることが必須です。また、職場に充実した育休制度や延長保育サービスなどの具体的な対策の早期実現を検討する必要があると思います。	1	一時保育や延長保育などの特別保育の充実や育児休業などの支援制度の利用促進を図る一方で、雇用対策・産業の集積を図り、仕事と子育ての両立を総合的に推進していきます。
長岡の「てくてく」のような施設がほしい。もし、新設されるようでしたら「てくてく」を参考にし、特に「ワークショップ」等のイベントには力を入れてほしい。	1	既存施設の有効利用を含め、「全天候型遊びの広場の設置」の早期開設を検討します。「ワークショップ」などのイベントは、先進地の事例なども参考にし、利用者の需要を把握しながら進めていきます。

<p>現状の一時保育は、保育園側の都合に合わせてなければならないため、長岡の「てくてく」のような施設に、独立した一時保育サロンをつくり、一時保育の充実化を図ってほしい。</p>	<p>1</p>	<p>独立した一時保育については、「全天候型遊びの広場」の設置と併せて検討し、病児・病後児保育、延長保育、夜間保育などを含めた特別保育への需要を把握し、全体のバランスを考慮しながら進めていきます。</p>
<p>ほのぼのの広場を地域住民やボランティアが子育てに参加する「ママサロン」に改善してはどうか。</p>	<p>1</p>	<p>ほのぼのの広場や、設置を検討している「全天候型遊びの広場」での事業メニューとして参考とします。</p>
<p>「南魚沼らしい教育環境の整備・充実」とは何なのか。また、市の方針によってカリキュラムや教育方法を変えることや、教員の資質向上の取り組みを行うことは可能なのか。</p>	<p>1</p>	<p>市の特色である国際大学との連携を活かし、豊かな国際感覚やコミュニケーション能力などの育成を目指した「国際科」の授業を実施するとともに、指導的な役割を担う「南魚沼市学習指導センター」を教育委員会内に設置し、教職員の資質向上に取り組んでいます。</p>
<p>小・中学校間の相互連携は、現在どうあり、今後どうするのか。また、実施することで市の教育が今よりもよいものとなるのか。</p>	<p>1</p>	<p>小学校から中学校に進学した際に、人間関係の再編成、いじめの激化などにより、不登校の増加や学力の低下が生じています。現在、小・中学校間では、合同の陸上練習、音楽学習発表会、部活体験などの交流を進め、継続性のある教育環境の充実を図っています。今後、さらに連携を強化し、不登校・いじめの防止や学力向上を目指します。</p>
<p>「家庭学習を目標時間以上達成している子どもの割合が70%を超える学級数の増加」を指標とし、勉強させようとする姿勢は認められますが、県内でも学力が低いこの地域の教育レベルを向上させるためには、より確かな施策や目標が求められるのではないか。</p>	<p>1</p>	<p>学力向上は、学校、家庭、地域、行政がそれぞれの役割を認識して、総合的に取り組んでいく必要があります。市内小・中学校の学力は、県内ではほぼ平均レベルです。さらなる学力向上に向け、「分かる授業・楽しい授業」への改善に取り組み、併せて家庭学習の意欲づけの工夫や充実を図っていきます。</p>
<p>若者が集まり楽しめる場所として、コンクリート製のスケートパークを整備してほしい。</p>	<p>7</p>	<p>市民の誰もが気軽にスポーツや運動が楽しめる環境整備と活用方法を総合的に検討しながら、スポーツ施設の充実に努めてまいります。</p>